

冬の食べもの



ナンキンハゼを食べるメジロ



ため糞をするタヌキ



木に残るセンダンの実



糞はほぼセンダンの実

メジロはミカンをつついたり、花の蜜を吸ったり、はたまた人間に飼われるものは、すり餌を食べたりと甘い物や柔らかい物を食べるイメージがあるが、硬いナンキンハゼの実を食べていた。タヌキが人目もはばからずに、ため糞をしていた。近づいて見てみるとセンダンの実しか食べていない。この時期の木に残るセンダンの実は干からびている。しかも木に登れないタヌキは落ちてくるのを待つしかない。冬の一番寒さの厳しい季節。生き物たちは飢えを凌いで耐えている。

見かけた植物・生き物



ウメが咲き始めた



スイセンが満開



キタキチョウ(越冬)



ナナホシテントウ(越冬)



ナンテン



ヒメオドリコソウ



マガモ



けもの道



オニグルミ



【冬芽】 シナサワグルミ

冬の「共生の森」



アオギリ



【冬芽】 センダン



ヌートリアの潜水



メダカが発生した水路にヌートリアがいた。人の姿に驚き、普段見かけるヌートリアかきではなく水中を潜航。人の歩く程度の速さで泳ぐ。水路を泳ぐしかないのについていく。体をそれほど動かさずにスーっと進んで行く。写真を見てもわかるように狭い水路でも波が立たない。実は潜水に適した体型をしているよう。この後、水草の中に隠れてしまい、しばらくたっても出てこず、どこにいったのか分からなくなった。かなり長く潜れるよう。

見かけた植物・生き物



ノビル



食べごろ



トベラ



ナワシログミ



セイウカラシナ



スノーフレーク



ホトケノザ



コハコバ



オオイヌノフグリ

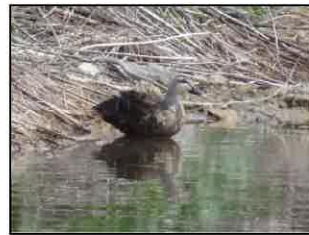


ツルニチニチソウ

ホシハジロ



もうすぐ北に帰る



カルガモ



ツグミ



ハラビロカマキリ卵塊



ナナホシテントウ幼虫



林のようす

タヌキ (まだ冬毛)



タヌキも歩きやすい車道をよく歩いている。タヌキと人間のどちらが先に相手に気づくか。人間が先に気づくとタヌキは気づかずに近くまでやってくる。

モクズガニ【初登場】



メダカが発生している水路でモクズガニが死んでいた。甲幅3cmほどのオス。この水路で数年間は生息していたと思われる。

モクズガニは海で生まれて河川を遡上し産卵の為に海に下る回遊性のカニ。山間部の幅の狭い川で見かけることもある。大阪湾で孵化し、さまよっていた幼生が、「共生の森」の水路から流れ出る淡水を河の水と考え、水路を遡り、不本意ながら居ついたものと見られる。

「共生の森」が海とつながっていること、モクズガニの幼生が「共生の森」の沖の海を行き来していること、少しの淡水を嗅ぎ分わけて遡上してくることが分かり興味深い。

見かけた植物・生き物



アオギリ



オニグルミ



ツマキチョウ



春のこの時季だけ姿をあらわす



ツバメシジミ(越冬)



ヒオドシチョウ(越冬)



テングチョウ



キタテハ



モンシロチョウ



ベニシジミ(春型)



ヤマトシジミ



クマバチ(越冬)



シオカラトンボ(羽化まもない)



ツチイナゴ(越冬)



シロハラ



ハシビロガモ



タヌキ(病気で毛がない)



モツゴ死骸(Q池 約6cm)

ハマウド【セリ科】



海沿いの一番海側のへりに「ハマウド」が生えていた。大きな葉がよく目立つ。
ハマウドは海岸に生える多年草で泉州地域の大阪湾でも見られる。

もともと「共生の森」にはなかったことから、種子が海流に乗ってやってきて、波の高い日に防波堤を乗り越えここに定着したともものと推測される。

「共生の森」の植物は植栽されたもののほか、土砂に紛れて来たもの、鳥や動物、風に運ばれて来たものなどが見られるが、海流に乗ってやってくるものがあることが分かる。植物はいろんな手段を使いしたたかにやってくる。

見かけた植物・生き物



ハマヒルガオ



アレテムラサキ



カタボウシノケサ



スズメノヒエ



タガラシ



カズノグサ



ヒエガエリ



ゴウソ

ギンヤンマ 抜け殻



オニグルミ



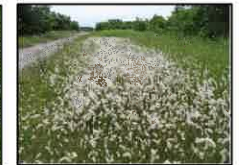
ビワ



ザクロ



シナサワグルミ



チガヤ



ルリシジミ



ツバメシジミ



テングチョウ



ギンヤンマ



アオモンイトンボ



ショウジョウトンボ



スジエビ



コイムシ・モツゴ



ヤゴ(アオモンイトンボ)



アメリカオニアザミ

コアオハナムグリ・アオヒメハナムグリ

ムスジイトンボ 【イトトンボ科】初登場

アオモンイトンボ



「先月、Z池にムスジイトンボがいた」と白石さんからお聞ききしてZ池に行ってみた。

海辺のZ池。この日は風が強く、いつも見かけるイトトンボもなかなか見つからない。

周辺の草むらを探してみると青色の鮮やかなイトトンボが一匹いた。目の奥まで鮮やかな波照間ブルーのような青。コロナ禍でどこも行けないが「共生の森」で南の海を見た気がした。

これまでも居たのかもしれないが、「共生の森」で見かけた3種類目のイトトンボとなった。

見かけた植物・生き物



アカメガシワ



アメリカノウゼンカズラ



シナサワグルミ



クズ・ウラナミシジミ



シナガワハギ



マルバハッカ



ヒメアカタテハ産卵中



シロチンハナムグリ



ツバメシジミ



カギバアオシャク



ゴマダラチョウ



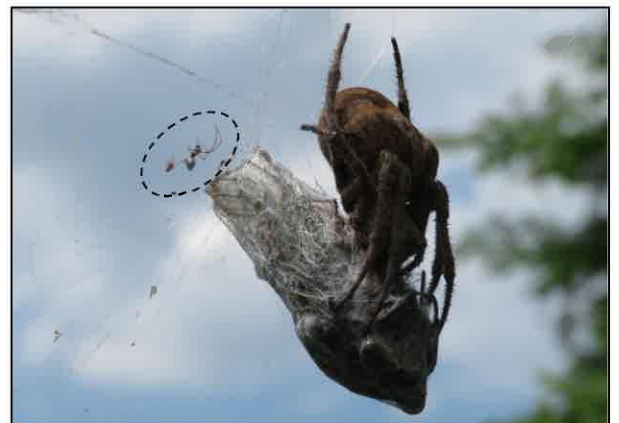
キリギリス



マイコアカネ



ベッコウハゴロモ



クマゼミを捕まえたオニグモ 小さいのはおこぼれを狙う シロカネイソウロウグモ

その他：アブラゼミ○・ツクツクボウシ・オオカマキリ(幼)・ヒメギス・マダラハッタ・モンシロチョウ○・モンキチョウ○・ルリシジミ○
ギンヤンマ・タイワンウチャヤンマ・シオカラトンボ○ (○写真あり)

ツクツクボウシ 【セミ科】



この日の堺の最高気温は 29.0℃。8月平年の最高気温 33.9℃に比べると、9月になりかなり過ごしやすくなった。

「共生の森」ではツクツクボウシが最盛期を迎えているようで、木のあるところ、いたるところでツクツクボウシの蝉時雨（せみしぐれ）。大阪の平地部でこれほどツクツクボウシが鳴くところが他にあるのだろうかと思うほど。

林の中の木の幹では、ところどころでセミを待ち構えるハラビロカマキリがみられた。

先月騒がしく鳴いていたクマゼミは全くいなくなっていた。J山ではアブラゼミとミンミンゼミ（1匹・初登場）も鳴いていた。

見かけた植物・生き物



ヘクソカズラ



ガマ



アキノゲシ



センニンソウ



オトコエシ



ヌルデ

ゴマダラチョウ



コロナ禍に蜜 アキニレ



トノサマバッタ



ウスバキトンボ



オオスカシバ



キタテハ



ルリシジミ



ヤマトシジミ



アオメアブ

ウラナミシジミを捕まえた



水溜まりにいた

オタマジャクシ (ツチガエル)



ハラビロカマキリ

林の中、木の幹で セミを待つ

その他：アブラゼミ・ミンミンゼミ（初）・ギンヤンマ○・ショウジョウトンボ○・シオカラトンボ○・チョウトンボ・アオモンイトトンボ○・アオスジアゲハ○・キタキチョウ○・ウラギンシジミ○・ウラナミシジミ○・イチモンジセセリ○・キマダラセセリ○・キリギリス・クルマバタモドキ○・ショウリョウバッタ○・エンマコオロギ・アオヒメハナムグリ○・シラホシハナムグリ○・大型のスズメバチの仲間○（○写真あり）

ハネビロトンボ【トンボ科】 H290930 にも確認



これまでに見たことのないトンボが、Q池とZ池で飛んでいた。捕まえてみると後翅の根元が茶褐色のハネビロトンボ。

ハネビロトンボは九州・四国南部から南西諸島にかけて分布する南方系のトンボ。大阪では、まれに見られる迷入種のように。

複数の個体が飛んでいたので、ウスバキトンボのように毎年、南方からやってくるトンボになるのか楽しみができた。

見かけた 生き物・植物



ギンヤンマ



台湾ウチワヤンマ



ショウジョウトンボ



シオカラトンボ



マイコアカネ



ウスバキトンボ



チョウトンボ



タイリクアカネ

コガタズメバチ



クモの巣から セミの羽を持ち去る



クコ



アレチムラサキ



ヒガンバナ



アメリカウランモドキ



キシウスズメヒエ



イヤマテンツキ



カンタン



コバネイナゴ



ツチイナゴ(幼)



ツユムシ



ホシササキリ



コカマキリ



キタテハ



キタキチョウ



ツバメシジミ



アオドウガネ



シラホシハナムグリ



スグリゾウムシ



ツチガエル(幼)



ハラビロカマキリ

その他：ツクツクボウシ・アオモンイトトンボ○・モンシロチョウ○・ウラギンシジミ○・ウラナミシジミ○・ルリシジミ○・イチモンジセセリ○・キマダラセセリ○・トノサマバッタ○・ショウリョウバッタ○・オンバッタ○・エンマコオロギ・アオヒメハナムグリ○・コアオハナムグリ○・ナナホシテントウ○・クマバチ・フタモンアシナガバチ (○写真あり)

コガタスズメバチ (スズメバチ科)



先月、クモの巣から獲物を持ち去るコガタスズメバチを紹介しましたが、今回はジョロウグモを捕らえる場面に遭遇しました。

クモの巣の周りを飛び回り、ときどきクモの巣に接触し確認。クモの巣のロープの端の葉の陰に隠れているジョロウグモを見つけます。

ジョロウグモを捕まえると、クモはなすすべもなくあっという間に足と胸を切り取られてしまい腹だけの状態に。この間約2分。

コガタスズメバチは普段からクモとクモの巣を利用しているのかもしれませんが。

モクズガニ



モクズガニが4匹いた 定着している模様



ジョウビタキ



スズメ



カンムリカイツブリ



ハシビロガモ

見かけた 植物・生き物



クコ



フウセンカズラ



タイリクアカネ



セグロアシナガバチ



タヌキの糞にはランタナ



ホシアサガオ・ホシホウジャク



ヤマトシジミ



ベニシジミ



ウラナミシジミ



セイタカアワダチソウ・オオハナアブ



アレチハナガサ・チャバネセセリ



クロコノマチョウ



キタキチョウ



モンシロチョウ



キタテハ



ツマグロヒョウモン



ヒメアカタテハ

その他：ギンヤンマ・シオカラトンボ・オンブバッタ・シラホシハナムグリ○・コオイムシ冬眠○・フタモンアシナガバチ・ツチガエル○
タヌキ○ (○写真あり) キタテハ・タイリクアカネが多くみられた

木登り タヌキ



タヌキの糞に「ピラカンサ」が混じる季節になったなと思いながら歩いていると、前方の木の枝先に何か生き物がいる。最初はネコ、次にアライグマかと思ったが、まさかのタヌキだった。

タヌキは木から落ちたピラカンサの実を食べるか、立ち上がって届く範囲の実を食べているものと思っていたが、なんと、細い枝の先まで登ってポリポリとやっていた。タヌキの能力をこれまで低く見積もっていた。タヌキに申し訳ない・・・

タヌキは食べ物を手に入れるため、いろいろな手段を持っているよう。冬場にたくさん食べているセンダンの実も、夏のコガネムシも、もしかすると変わった集め方をしているのかもしれない。

サカナや、モクスガニの生息が分かった時もそうだったが、「共生の森」では自分の常識や思い込みを裏切られる発見があり、なかなかおもしろい。

見かけた 植物・生き物



ナンキンハゼ



アカメガシワ



カラスウリ



センダン



ヒメアカタテハ



ツマグロヒョウモン



ウラナミシジミ



タイリクアカネ



オオカマキリ 卵塊



トビ



ホシハジロ



共生の森 探検ツアー

モズの はやにえ (メジロ)



道沿いの木の枝にモズの「はやにえ」があった。ギンヤンマかと思ったがよく見るとメジロの脚だった。

「共生の森」では、いろいろな「はやにえ」を見てきたが、鳥は初めて。食べ残しの脚を刺したのではなく、おそらく他の「はやにえ」同様、最初は丸ごと1羽を刺しておいて、その後に食べた残りの物と思われる。

この日の「共生の森」は、木の葉が少なくなり、メジロがよく目につく季節になっていた。

鳥の巣



センドンの葉がなくなり、鳥の巣がでてきた



トベラ



クコ



ミサゴ



ツグミ

見かけた生き物・植物



ヒメアカタテハ



キタキチョウ



オオカマキリ卵塊



ハラビロカマキリ卵塊



スズバチの巣(泥)



タイリクアカネ



トビ と カラスが相談中



ウラナミシジミ

残り少ない花の蜜を吸う 今週末はクリスマス寒波

その他：モンシロチョウ・タヌキ・イタチ・コミミスク・メジロ〇 (〇写真あり) メジロとカラスが普段より多くみられた